

令和4年度 大阪高等学校 学校評価

1 めざす学校像

1927年（昭和2年）、旧制中学校として創立以来、「知育・徳育・体育の調和のとれた全人教育」を追究すると共に、時代の変化を見据えた新たな教育目標である「未来へ、世界へひらく自己の確立」を掲げ、ユニークな進学校を目指します。

- ①学力を多面的に捉え、向上を図る
- ②社会性と共に基本的生活習慣の確立を図る
- ③課外活動の充実を図る
- ④進路観を掘り起こし、実現を図る

〈目指す学校づくりとして〉

- ①学習活動と特別教育活動の両面を充実させ、人間的成長と希望進路の実現を図る学校
- ②生徒・保護者および地域から愛され、信頼されるとともに、安心して安全な学校
- ③広報活動を充実させ、より多くの中学生・保護者に理解いただき、支持を頂ける学校
- ④3年間生活する中で満足度が高くなる学校

2 中期的目標

1 主体的、対話的で深い学びの実現

- ①自ら学ぶ力の育成
- ②共に学ぶ力の向上

2 課題解決力の育成

- ①多様性を受け容れられるホームルームづくりに取り組む
- ②大高文化創造の柱として学校行事の充実に取り組む
- ③生徒会執行部を中心としたより一層の自治活動推進を図る
- ④部活動をはじめとする多様な課外活動への参加促進に取り組む
- ⑤ルール遵守を基盤に、対話を軸とした学習集団の育成に取り組む

3 選択する力の育成

- ①学年目標達成を目指し、教職員が進路支援に向けて幅広い知識習得や外部連携を円滑に行える環境を整える
- ②生徒の興味関心を広め、自らの課題を発見し、その解決に向けての自学自習や探究活動を促進する支援体制を構築する
- ③生徒が自立した社会的職業観を身につけ、進路実現に向けて「繋がる力」「繋げる力」を育成する

4 その他

- ①本校の広報活動の改善を図り、生徒・保護者・教育関係者等へのアプローチを推進する
- ②HPの改良に着手する

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析 [令和4年12月実施分]	学校評価委員会からの意見
<p>○「自己評価」に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全家庭に保護者アンケートを郵送、無記名回答。回収率 97.7% ・全生徒アンケートは2学期期末試験最終日に実施。教員がアンケートを配布、回収。 <p>[1] 生徒の自己評価</p> <p>○生徒の肯定的回答上位2項目</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) [規律ある学校生活] 高校生に相応しい規律ある生活、マナーを守った集団生活を自分は送れていると思いますか。 肯定評価の割合 87% 2) [役割] 日直や係の仕事、クラス活動や学校行事の中で、自分に与えられた役割をきちんと果たそうとしてきたと思いますか。 肯定評価の割合 85% <p>○生徒の肯定的回答下位2項目</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) [対話] 勉強や進路、部活動、学校の様子について、家族の方と話をしますか。 肯定評価の割合 76% 2) [学習] 自分なりの目標や課題をもって、日々の授業や家庭学習に取り組んでいますか。 肯定評価の割合 67% <p>[2] 保護者による学校評価</p> <p>○保護者の肯定的回答上位2項目</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) [総合満足度] お子様を本校へ入学させてよかったと思われませんか。 肯定評価の割合 94% 2) [学校行事] 学校行事が充実しており、行事についての様々な工夫や学校の姿勢が強く感じられますか。 肯定評価の割合 90% <p>○保護者の肯定的回答下位2項目</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) [自律学習] 保護者の目からみてお子様は、自分なりの目標や課題を持って日々の学習に取り組めるようになりましたか。 肯定評価の割合 67% 2) [育友会活動] 育友会(大阪高校保護者と教職員の会)の活動への関心度 肯定評価の割合 37% <p>[3] 教員による学校評価</p> <p>○教員の肯定的回答上位2項目</p> <ul style="list-style-type: none"> [総合満足] 保護者や生徒は、大阪高校に入学してよかったと評価していると思いますか。 肯定評価の割合 92% [部活動] 生徒の部活動に対して、クラブ顧問は熱心に指導していると思いますか。 肯定評価の割合 91% <p>○教員の肯定的回答下位2項目</p> <ul style="list-style-type: none"> [育友会] 育友会(大阪高校保護者と教職員の会)の活動に関心を持っていますか。 肯定的評価の割合 53% [自律学習] 生徒は、自分で立てた計画に沿って、自ら主体的に学習に取り組めるようになってきていると思いますか。 肯定的評価の割合 31% <p>【分析】</p> <p>ここ数年「学習指導や学力向上」「進路指導や就職支援」でのさらなる充実を求める声に応えるべく様々な改善策を講じてきましたが、保護者の期待に応えきれていないことがまだあり、教職員もまたさらに改善を進める必要性を感じています。学習指導では、新課程のになり、獲得を目指す学力にも変化が生じており、それらに応じた新しい指導手法の開発も加速していきたいと考えています。進路指導においては、学校全体で3年間を見通した計画的な進路指導を目指し、指導全体の流れや各時期の指導とその成果などを保護者の皆様も理解して頂けるよう、情報発信の充実に努めていく必要を改めて感じています。生徒の「情熱とチャレンジ」を応援すべく、指導の改善を重ね、樹実を図って参ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者からの学校への期待が向上している。だからこそ、本校の学習指導、進路指導をより改善する必要がある。3年間を通じた学習指導・進路指導が不可欠である。組織だった指導スタイルを早急に構築するべきである。 ・非常に多くの教育活動が行われている。特に外部教育機関と連携した課外活動に注目している。 ・保護者へ教育活動についての情報をより知らせて欲しい。 ・保護者の育友会への認知がまだ不十分なので、より工夫が必要である。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学び続ける力の育成	(1) 多面的な学力の向上 ア 課題解決型プログラムの導入 イ 夏季講座の充実 (2) 指導力の向上 ア 学年会議や校務会議の充実	ア 2年生総合コース総合的学習の時間でクエストを実施 イ 無学年制を基本とし、教員が教えたい内容を提起 ア 大学入試情報と職場内の対話を深める研修の実施	ア 全国大会を目指し活動し、学びのポートフォリオの作成 イ 講座数と参加生徒数、事後アンケートによる振り返り ア 月1回程度の研修実施後アンケート調査による満足度	ア 全国大会複数出場 イ 講座数 99 延べ講座受講数 2000 参加者満足度 8 割以上が高評価 ア 本校と関わりのあるコーチングの専門家と連携した新しい研修年 3 回の全学研修の実施
2 問題解決力の育成	(1) 学校行事の充実 (2) 帰属意識の向上	ア 文化祭におけるクラス参加の継続 イ 文化祭における保護者への対応 ウ 体育祭における学年ミックス参加の継続 ア 新入生歓迎会でのクラブ参加呼びかけ オープンスクールでの体験・見学 イ 担任⇒ブロック⇒学年での指導 保護者への密な連絡 ウ 着こなし指導の継続実施 エ Q-U アンケートを活用しての学級運営	ア 工夫度の向上 イ YouTube での配信 ウ 応援団を 6 団編成とする ア 加入率 60%以上 イ 出席率 98%以上 ウ 年 4 回以上の着こなし エ 学級満足群 50%以上	ア 全学年舞台発表実施 イ 保護者は来場できなかったが、YouTube での配信を行う ウ 応援団 154 名の生徒が参加 ア 加入率 54% イ 出席率 96.0% ウ 年 5 回の実施 エ 学級満足群クラス平均 49%
3 選択する力の育成	(1) キャリア形成にかかわる情報提供及び機会の創出 (2) 地域社会の課題解決に取り組む活動や外部団体との連携講座の充実 (3) 協働やキャリア形成意識のための基礎学力	ア 学年テーマごとに進路ガイダンス実施 イ 薬医療看護・海外進学プログラム、進路検討会の実施 ア CHOLA ゼミやラボ講座を大学、短期大学、専門学校等と連携して講座を実施 ア 大学及び短期大学との協定終結及び継続 イ 大学の単位認定講座の実施 ウ 進学前教育の計画的実施	ア 進路観の醸成及び教養の深まり イ 各自の志望校の選択 ア 分野別に体系的な取り組み ア 進路獲得の機会拡充 進学費用等の負担軽減 イ 認定講座の開講講座数 ウ 進学前の課題、面接の実施	ア 延べ 100 校以上の大学専門学校、または企業が参加 イ 進路決定率 98%に実現 ア 社会の諸問題に触れることによる視野の広がりや課題解決力の向上 ア 新規協定校の増加 (5 校) 協定校との契約継続 (10 校) イ 進学先の単位認定 (科目履修等) 講座の受講 延べ 10 名程度 進学先の入学前教育に加え、本校独自の進学前教育を提案 (参加者 214 名) ウ 大学、短期大学からの高評価実施
4 その他	(1) 重点中学群・重点塾への広報活動の工夫 (2) 教育実践の内部広報と外部広報 (3) オープンスクールの研究 (4) 教育について語る場の創出	ア 出前授業の充実 イ 中学校・塾との情報交換に重点を置く ア 日々の教育活動を「大高の教育実践」で内外に発信 イ 探究コースの取り組みを広報の重点に ウ HP の権限を各クラブ・学年・分掌に分担する ア 主体的に行動する生徒組織の構築 イ オープンスクール企画運営委員会を通しての生徒の成長を促す ア 教育フォーラムの開催 (来校者 62 名 WEB95 名) イ 中学校の保護者対象説明会 3 回開催 (来校者 96 名 WEB88 名)	ア 新規出前授業 イ 訪問回数 ア 学内情報の見える化 イ 探究コースの情報提供希望 ウ HP の訪問回数 ア 参加希望者数 イ 質問内容 ア 対話の内容 イ 対話の内容	ア 出前授業の依頼増加 (前年比 19 校増) イ 1000 回の訪問回数 (前年度同数) ア 授業実践を 23 号まで発行。内外の広報にも有効であった。 イ 学校説明会への参加者増加 ウ 新規訪問回数が増加 (2836) ア 来校者の立場に立った企画への変化 イ 主体的に行動する生徒が増加 ア 参加者からの問いを通じてフォーラムを実施できた。 イ 教育内容に関する問いが多く、充実した対話の時間となった。